



中学受験

全員合格

相模原中等へ1名合格

中学入試結果

公立高校前期選抜入試結果

2月1日(水)、午前10時から、県立高校前期選抜入試の合格発表が行われました。今年度の全日制の課程の平均競争率は前年度からさらに0.07ポイント下がり、2.08倍でした。2013年度からは前期選抜と後期選抜が統合一本化するため、このような形での入試は最後になります。

最高競争率は3年連続で横浜翠嵐高校の4.42(昨年4.53倍)倍でした。近隣校では、湘南2.82倍(昨年2.55倍)、鎌倉2.39倍(昨年1.84倍)、茅ヶ崎北陵1.35倍(昨年1.85倍)、大船1.84倍(昨年2.07倍)、藤沢西1.98倍(昨年2.23倍)など、全体としては昨年の競争率を下回る結果になりました。依然としてトップ校・準トップ校の前期選抜はハイレベルな競争だったといえます。SHOSHIN生は前期選抜に10名がチャレンジして、6名が見事合格を果たしました。前期選抜に合格した生徒たちは、私立高校推薦合格者に混じって、選択講座の中で高校の学習内容に意欲的に取り組んでくれています。

また、後期選抜を残している生徒たちは、入試直前選択講座の第Ⅲ期でラストスパートをかけているところです。後期選抜の学力検査は2月16日(木)に行われ、合格発表は2月24日(金)になります。

公立中高一貫校入試

男子の実質倍率が9.01倍、女子が9.80倍(相模原中等教育)という高倍率が伝えられる中、教室からは8名の生徒が受験して、1名の合格者がありました。

中学入試結果報告会

2月18日(土)
午後 時～2時30分

新年度教室説明会

2012年度の授業の内容、教育方針などについてご説明いたします。ぜひご参加ください。

○小学部湘進・公立受験
新年度説明会

2月25日(土)

○中学部新年度説明会

2月25日(土)

※時間はいずれも13:00～14:00になります。

のびる

二〇一一年度私立中学受験コース生の入試結果がまとまりました。生徒皆の努力が実り、二十一人全員の合格が決まり、これで七年連続で百パーセント全員合格も達成することができました。受験生全員に心からおめでとうとお伝えしたいと思います。▼昨年は二月二日に全員の合格が決まるという異例の早さでしたが、今年の受験生全員の合格が決まったのは二月六日のことでした。とは言っても、昨年が早すぎただけで受験日程などの流れを考慮すれば例年と変わりありませんでした。ここ数年の首都圏の私立中学受験入試状況は受験校を絞り、入りたい学校を受けるといった傾向が強まっています。その結果、首都圏全体の平均倍率は微減傾向にあります。人気校の倍率は相変わらず高めです。近隣の人気校を受験した今年の中学受験コース生はこの厳しい状況の中で、全員合格を達成できたのですから、本当に頑張ってくれたと思います。▼さて、このような頑張りを見せてくれた今年の受験生達ですが、新六年生のスタート当初から気掛かりなことがありました。それは精神的な幼さを感じていたことでした。よく言えば、心が穏やかで気持ちの優しい生徒が多いということなのですが、受験生として考えれば物足りない面が多く、果たして最後まで受験をやり抜いてくれるのだろうかという不安を感じさせる集団でした。▼そんな不安だらけの集団ではありましたが、最初の勲章が夏休み講習会にありました。それは毎年行っている歴代テストで過去数十年の中で、国語と算数の全体平均が歴代最高点という輝かしい結果を残したことでした。生徒達には素直に褒めてあげましたが、内心では結果が出るのが早すぎると感じていました。このまま、順風満帆に行くはずもないと感じていました。▼その考えが的中したのが夏季合宿から帰ってきた直後でした。夏季合宿では予定していたスケジュール以上のことをこなせ、良い状態で夏休み講習会後半を迎えられると思っていました。しかし、幼い集団の中には遠足気分が抜け切らず、集中力に欠ける生徒がいたり、SHOSHINでは珍しく友人関係でぎくしゃくする場面があるなど、集団として大きく前進できない時期がありました。この時期は担当の一人として相当焦りましたが、講師全員の結束と生徒達の勉強に向かう姿勢の変化で何とかこの悪い流れを断ち切ることができました。そして、遅れを少しずつ取り戻しながら着実に力をつけ、何とか入試に間に合わせることで、今回の入試結果に結びつきました。▼終始、皆のことを「幼い」と書き続けてきましたが、入試を終えた今感じるのは、本当に遅しく、精神的にも成長してくれたと感じています。生徒のほとんどが入試を通じて更に実力を高めてくれたのではないかと嬉しくも思います。そして、何よりも全員が最後まで受験をやり通してくれたことを担当の一人として誇りに思います。▼これより早く一区切りをつけることができましたが、長い人生から見れば、まだスタートラインに立つたばかりです。進学校にいろいろな思いはあるかもしれませんが、各人にとって最善の学校だと考え、自信を持って次の目標に進んでもらいたいと思います。最後になりましたが、ここまでお子様をいろいろな面で支え、苦楽を共にされたご家族の皆様、本当にお疲れ様でした。(二宮)

